

フードテックWG 三菱総研久保田 提出資料

2025年12月25日

MRI 三菱総合研究所

経営・DX事業部門 食農分野担当本部長 久保田孝英

社会課題解決にむけたアグリ・フードビジネス参入の落とし穴

- 社会課題があるところにはビジネスチャンスがある、として参入を試みても、以下のような落とし穴でうまく進まないことも多い

|よくある落とし穴

1

業界構造が複雑で
プレーヤー間の役割・
力関係が分からず、
誰にどうやってアプローチ
すればいいかわからない

2

いろんな政策・規制が
入り組んでいて、
何に気を付ければいいの
か、使える補助金は
どれかわからない

3

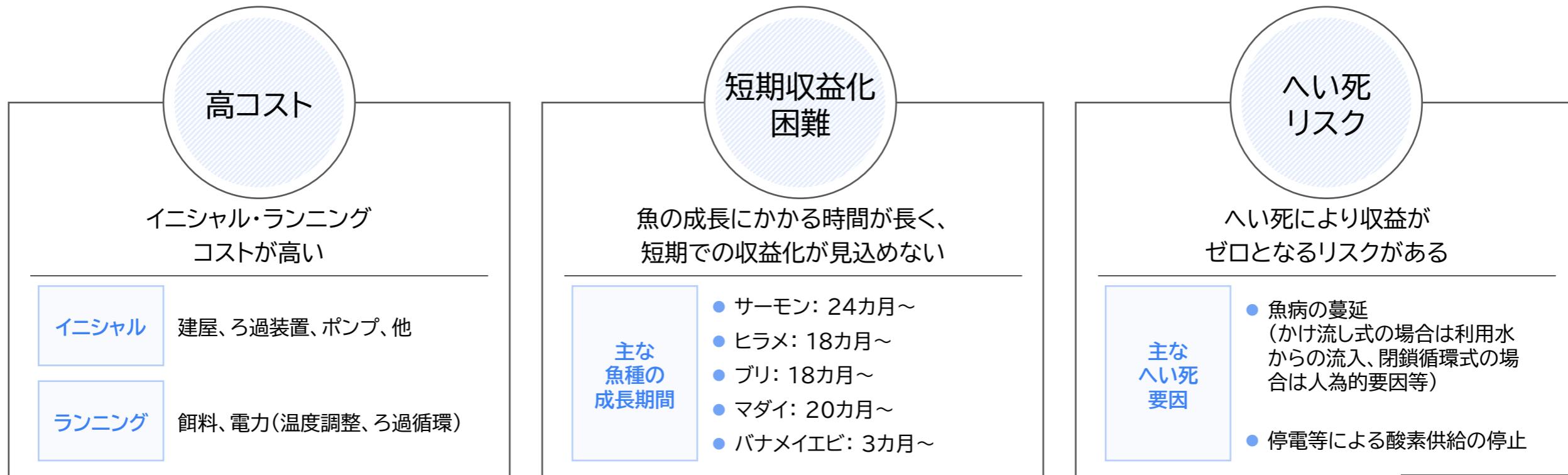
利益率が低すぎて
収益化できない

4

自社の経営資源・技術
だけでは取り組めないが、
連携の仕方が分からない

落とし穴③ | 利益率が低く収益化困難 の読み解き

- 陸上養殖は、養殖一般的な餌料コストに加え、ろ過循環・温度管理の電力コストや、施設・設備のイニシャルコストが高く、利益を圧迫している
- 成長期間は魚種によるが、概ね数年スパンであり、短期での収益化が困難なことに加え、技術・管理不足によるへい死リスクがある点が課題



解決の方向性

- 他の産業と同様に、市場ニーズ等に基づき魚種・ビジネスモデルを検討していくことが最重要
- 設備導入やオペレーションの確立により、へい死リスク対策を行っていく必要



市場ニーズに合わせた 魚種選択

対象エリアの実需者ニーズを把握し、十分な需要量・市場価格が見込まれる魚種を選定（ロット・加工形態・時期含め）



大規模 or 小規模 に振り切る

大規模・低成本生産 or 小規模高単価販売どちらを目指すか、市場ニーズと自社アセット等からビジネスモデルを検討



徹底的な へい死リスク対策

病原体の持込リスク対策や、停電時の非常用電源設置など、魚病の蔓延／酸素供給の停止に関するリスク対策を徹底